

第9回道泉地区協議会 結果について（報告）

日 時	令和元年5月14日（火）19:00～20:40 於：道泉地域交流センター
配布資料	別添のとおり
【議題】※司会進行：事務局	
1 あいさつ	
加藤道泉連区自治連合会会長より挨拶がされた。 教育部長より挨拶がされた。 経営戦略部長より挨拶がされた。	
2 参加者紹介	
事務局から、本日は協議会役員、各グループ代表者、小・中学校代表者、地域代表者併せて18名の出席があることが報告された。	
3 協議事項	
○ 跡地の利活用の進め方について	
「小中一貫校整備に伴う小学校跡地の活用に向けて」について資料に基づき報告された。	
・本日は本年度1年間のスケジュールについて説明をし、次回以降で跡地活用についての詳細な議論へ入っていく予定である。	
質疑応答	
質問1：今の説明は昨年4月にも地区協議会で聞いていることであり、そこで既に「具体案を示す」となっている。今になってこのような説明をしているのはおかしいのではないか。	
回答1：昨年4月の説明を踏まえ、昨秋に民間の銀行やシンクタンク等と検討した試案を示したところであるが、あくまでも試案である。道泉地区においては、その後にアンケート調査結果などを通してご意見もいただいているため、それらを踏まえつつ、試案をブラッシュアップさせながら、ステップに沿って議論していきたい。何よりも、試案に対しては様々な誤解を生んでいることや、閉校直後以降の防災機能についてのご心配事について、整理する期間が必要であると考え、ステップに沿って議論を進めたい。	
意見1：次回以降はより具体的に議論が進展すると考えてよいか。これでは1年間を棒に振ったことと同じである。	
事務局：昨年の試案には、売却して住宅を建てようという内容も含まれていたが、市の一方的な案であり、地域の思いの盛り込んだ内容ではない。それを振り出しに戻し、とにかく地域ときちんと話し合い、地域の意見の入った案とするようお願いしている。また、小中一貫校への通学に関する問題の進展がなく、あまりに遅れていることから、通学の問題が進まないのに跡地の話は進められない。	
教 員：子どもたちは放課後や土日に部活動・クラブ活動をしており、当面は道泉小学校の運動	

場や体育館で活動を続けたいと思っている。にじの丘学園の部活動がまだしっかりと決ま
っていないところがあるため、子どもたちの活動については今まで通り道泉小学校で行え
るよう検討していただきたい。他の学校の子どもたちと同じチームになってうまく活動で
きるかわからないので、早めに決めていただくと保護者も安心できると思う。

市役所：跡地には道泉小と本山中がある。本山中は借地であるため、建物を解体し更地として返
還することをこれまで説明してきたが、解体費用にも多額を要することから、今後、建
物を含めた利活用の可能性について、検討させていただく予定である。次回以降、説明
したい。

P 長：本山中から道泉小への通路があるが、そこを通学路として残すようお願いしたい。

○ 通学について

「路線バスを活用した通学について（案）」に基づき報告。

- ・道泉地域力推進協議会から、瀬戸市長に対してご提出いただいたアンケートの内容については、市長以下職員も熟読し、不安や課題の解消に努めるため、誠意ある対応を行うようにとの指示があった。
- ・アンケートの結果について、意見の大多数は、通学路、バス通学等の通学方法についてであり、通学における安全確保については重要な要素であると認識している。
- ・平成29年に想定通学路において、地区のPTA、自治会の皆様のご協力いただき、国、愛知県、警察等各関係者が連携して、合同点検を行い、点検において抽出した危険箇所について、順次、各種対策を実施しているところである。また今年度、学校でも通学路点検を実施すると伺っており、そこで新たに生じた危険箇所についても対応していく。
- ・その他、各種取組として、通学時の荷物の負担軽減策のひとつとして、学校に荷物を置いていく「置き勉」の実施に向けた検討や、幡山中学校区において、児童のカバンにICタグをつけた、「見守りシステム」を実証実験として実施しており、その検証結果を踏まえて、にじの丘学園において実施を検討したいと考えている。
- ・情報が伝わってこないというご意見もあったため、PTAや地区協議会での説明に加え、広報やメディアを活用し、丁寧な説明、情報提供をさせていただく。
- ・PTA総会で説明した内容は、ここにいる皆様に幾度か提供してきた内容と同じになっている。
- ・我々としては路線バスの活用を目指していること、通学に合わせたダイヤ編成を検討していること、安全に登校できるよう増便に向けて検討していること、祖母懐公民館東のバスバース工事を進めていこうとしていること、支援策について小学生を対象として検討していること、支援のあり方については引き続き検討していくことを話した。
- ・そこで、支援のあり方について、具体的にいつごろ検討案を出せるのかという質問があった。来年度予算に非常に大きく関わる話なので9月ごろには案を提示したい、という旨の返答をした
が、それでは間に合わないのではないかという意見があったので、それを受け、5月末には案が提示できるように努めるという返答をした。

○ カリキュラムについて

「にじの丘学園教育プログラム（カリキュラム）」に基づき報告。

- ・学校の先生が子どもたちの成長を9年間見守ることができるということは、とても大きなメリットの一つである。9年間同じ学び舎で子どもと先生が過ごすことが出来れば、精神面で大きく成長を遂げる15歳までを、教師集団が常に情報を共有しながら対応していくことができるので、学習面でも生活面でもこれまでよりしっかりと支えることができる。
- ・小中学校の先生が互いの校種を越えて乗り入れ授業も行うので、中学校の理科の先生が小学校高学年の理科を担当したり、小学校の先生が中学校の数学の授業に出かけ小学生時代に算数が苦手だった子の学習を支援したりという場面も出てくる。それにより小中のつなぎ目が緩やかになり、中1ギャップと呼ばれる精神的なギャップを大きく軽減することに繋がっていく。
- ・これまでも中学生が保育園に保育実習に出かけることがあったが、そこで見られた年上の子どもが下級生を優しく面倒を見る光景が日常的に見られるようになる。図書室などのスペースで、お兄さんお姉さんが小さい子を前に絵本の読み聞かせを行うような温かい交流がたくさん生まれるのではないかと想定している。
- ・にじの丘学園の学習活動は、「協働型課題解決能力の育成」を中心に据えて行っていく。これは、今までの授業の在り方を180度変えていくというものではなく、従来通り子どもたちの基礎基本の定着はもちろん大切にしながら、応用力や対応力を身につけさせ、この「協働型課題解決能力の育成」に力をいれていく。
- ・人工知能AIが進化して近い将来「超スマート社会」がやってくると言われているが、人工知能が進化しようとも、人間が人間で有り続けることが出来るのは、社会における課題を、自らの力で解決しようと知恵を出し合い、互いの納得できる形を見いだしていくことが出来るからである。スマートフォンをお持ちの方も多いが、機械が進化してもそれを使うのは人間であり、スマートフォンやタブレットで世界中の人々をつなげる社会がやってくるので、そこで必要となってくるのは主体的に自分の頭で考えて判断する応用力や対応力である。こうした社会に対応できる資質や能力を育成していこうと考えている。
- ・7つの学校の先生は、にじの丘学園開校前年度の今から「協働型課題解決能力」を意識した授業を行い、先生方もスキルアップできるよう意欲的になっているところである。新しい教育に子どもも教師も挑戦していこうという熱意が、開校に向けて高まるようにしていくことが出来ればと考えている。
- ・瀬戸市のキャリア教育は日本国内で注目されている。瀬戸市ではこのキャリア教育をにじの丘学園開校と同時にリニューアルし、大人になった自分がどんな生き方をしていくのか、どうやったら社会に貢献できるのか、そういうことをしっかりと自分自身の頭で考え責任を持って生きていくことができるよう、力を身につけさせていく。
- ・学校の施設はもちろんのこと、そこで行われる学習活動も今までの各校で行われてきたものを土台にして、9年間の「協働型課題解決学習」を上積みしてよりよいものにしていくので、「素敵な学びの空間が待っている」という期待感を持って、お待ちしておりますと考えている。

4 その他

- にじの丘学園建設状況について、資料に基づき説明。

質疑応答

質問 1 : カリキュラムも大切だが、まずは通学の問題をなんとかしていただきたい。昨年度末に教育長が辞任し、人事異動で教育部長も異動となった。あと 1 年で新しい学校が開校するという時にトップ 2 人が変わったということについてどう考えているのか。

回答 1 : 人事異動に関しては、我々はどのような体制になったとしても「子どもたちの未来のためにいい学校を作る」ということに尽力することは揺るぎない部分である。

意見 1 : 通学について、示されている案は昨年から変わっていないまま進んでしまっている。せっかく体制が変わったのだから、地域の要望を前向きに受け入れて実現していただきたいと切に願っている。カリキュラムはまだあとから修正がきくかもしれないが、通学については予算の関係もあることなので、もう時間がなく、大変歯がゆい思いである。地域の皆さんが本当に望んでいることはなんなのかということを受け止めた上で、受け止めるだけでなく、きちんと実現していただきたい。

質問 2 : 今の意見は、地域の皆が思っていることである。この資料を見る限り、地域の声は何も聞いてくれないのだなと悲しく思う。今の説明は今まで何度となく聞いてきており、時間の無駄ではないか。この案から変える気がないのではないかとさえ思う。こちらが要望している内容についてそもそも知っているかすら、疑問である。教育プログラムは力の入った内容となっていると感じた。通学についてもこれくらい力を注いでいただきたい。保護者としては、たとえいい学校が作られたとしても、子どもが安心して通える学校でないといい学校ではない。安全に通わせられないのなら、通わせたくない。

回答 2 : アンケートは 79 枚全て読んでいる。そのうち 39 枚に費用に関することが書いてあり、そこが地域からの強い要望であると感じている。そういったことを一つずつ、なんとか軽減が図れないかを含め、取り組んでいるところである。それらを踏まえて、先ほど申し上げたように、今月中には支援のあり方整理をし、来月早々にはお示しできればと考えている。資料や説明が同じとなっているのは、今回は 4/22 に行われた PTA 総会での資料を持ってきたためである。PTA 総会でこのような説明を行ったのは、今現在の通学に関する案が、ニーズに合わせたダイヤ編成について含めてきちんと PTA の皆様に伝わっているかどうか不安な部分があったためである。

質問 3 : 平成 30 年度の 3 月議会において、スクールバス予算が計上されたと聞いた。どういう用途・意図で予算計上したのか。

回答 3 : 通学に関しては、以前からお示ししているフローチャートに従って検討を進めている。昨年 6 月の予算要求の時期の段階で、東明地区は路線バスの活用をするにあたりバス停の安全性の確保が不確定であった。我々としては路線バスの活用も考えながら、もしバス停の安全性が確保できなかった場合、フローチャートに基づきスクールバスの運用も可能性としてあるということで予算計上した経緯がある。現在、東明地区に関しては路線バスの活用を前提としてバス停の安全性確保に努めているところである。

質問 4 : 東明地区はスクールバスの予算があるということか。

回答 4 : 予算としてはある。ただ、現在は東明地区も路線バスの活用を前提に進んでいる。

質問 5 : 東明地区の課題はバス停だけのことなのか。我々の思いを全く理解していない。アンケートは本当に読んだのか。読んで終わりになっている。

回答 5 : 主にバス停である。他に、自宅からバス停までの通学路の安全確保という点もある。アンケートは全て読んだし、以前から通学路の安全点検も行っている。開校前にできることと、開校後にできることの整理もしている。

質問 6 : 4/22 に行われた PTA 総会で、支援策について具体的な金額は提示したのか。また PTA 総会での納得感は得られたのか。

回答 6 : 2,000 円の自己負担については口頭で報告した。納得感は得られていないと感じた。そのため、今月中に整理をし、来月にはお示しするということをお伝えした。

意見 2 : 先ほども意見にあったが、いい学校というのは安全に通えてこそである。パルティまで歩き、また祖母懐橋からも歩き、パルティまでの歩行距離、バスに乗る際安全かつ一人も漏れずに乗降できるか、バスの中に不審者がいないか、バスの中で体調が悪くなったらどうするか、祖母懐橋から学校への歩行距離など、問題点は山ほどある。それに関し安全策が何も提示されず、回答もない。本当に子どもたちの安全な通学を確保する気があるのか。そんな風だから、道泉小からにじの丘へ行く子がいなかったのではないのか。それが保護者の答えではないのか。

質問 7 : 地区協議会としては、市の 5 月末までの課題の整理を受けた市の動きを待っている状態であると認識してよいか。

質問 8 : そのとおりである。

意見 3 : 前教育長と我々はずっと相談しながら道泉小学校をよりよい学校とするため一緒にやってきたつもりである。そういった経緯もあり、道泉地区は初めから小中一貫校に反対している。他の地区は了承した。周りからは道泉地区がごねているようにしか見られない。本当は最後の最後まで反対するつもりであったが、それではほかの地区にも迷惑をかけてしまうので、賛成ではないけれども、同意はした。それにも関わらず、なぜもっと真剣に地域の意見を聞いてくれないのか。我々が譲った分、市も我々に譲る部分がなくてはいけないのではないのか。市には市なりの考えがあるのだろうが、保護者としては不安がいっぱいである。それなのにこのまま進めていくのか。道泉は市のために犠牲になっている。そのことをもっと市長に進言すべきである。他の地区は最初バスの話などしていなかったのに、今になってバスを出せと要望している。いまさら何を言っているんだと言いたいくらいである。せっかくいい学校を作るのなら、最低限のところはきちんと守ってほしい。

質問 9 : バスの支援策について、道泉地区としては小中学生両方の支援を要望していた。この資料を見ると対象は小学生だけに見えるが、どうなっているのか。

回答 9 : 中学生も要望の対象として承知している。

質問 10 : 予算計上の話に戻るが、計上のための見積資料を次回の地区協議会に持ってきてほしい。東明地区の人はこの話は知っているのか。

回答 10 : 公文書開示請求をしてもらえれば、お見せできる部分はお見せすることはできる。東明地区はこのことは知っており、その上で路線バスの活用を進めているところである。

意見4：義務教育なので、お金のない家庭でも安心して通える学校にしていきたい。

意見5：この会議は公のものであり、我々は地域の代表としてここに来ている。それなのに公文書開示請求をしろというのは横暴であり、非常に腹立たしい。

備 考

次回は6月7日（金）